

Non Profit Organization
NARA FORUM21

naraなら

この二年を総括して前進しよう

奈良二十世紀フォーラム理事長

石橋 毅一

二十一世紀の幕開けの年となった今年度(二〇〇一年四月～二〇〇二年三月)、奈良21世紀フォーラムは別掲にご紹介する事業とは別に、奈良県内における最近の観光客の減少に歯止めをかけると共に地域の活性化をはかるべく、やや大型のプロジェクト企画を二・三考え、奈良県と奈良市に対して後援と補助金の交付を申し入れました。

その一は、いづれも国の特別史跡に指定されている奈良市の平城宮跡と橿原市の藤原宮跡に、奈良県内の四十七市町村が誇るまつりや伝統芸能を一年おきに総動員して、三日三晩「大和のまつりオンパレード」を大極殿の特設ステージを中心に繰り広げるというものです。初年度は大和が発祥の地とされる盆おどりをテーマに、会場には各市町村の特産市を設け、まつりを盛り上げることにしていました。

その二 奈良県警察本部からの依頼で、最近奈良県内で激増する自動車、オートバイ、自転車の盗難(年間平均一日二十件を上回る)を防止するため、奈良県内の「車盗多発地区」を選定、分析の上、発生状況をインターネットや街頭展示板等で瞬時に速報するシステムネットワークをつくり、発生件数を五年後に半減するプランを三和総研、NTTの協力を得て共同提案しました。

その三 日本を代表する門前町「ならまち」で、

廃れていく町衆の年中行事を高画質の映像で記録保

存すると共に、今も「ならまち」を支えている伝統産業の中から十三の業種を選んで、涙ぐましいまでの生き残りの動きを紹介するビデオを制作するという内容です。

この三つの提案は、いづれも自治体の財政難、NPO活動への理解不足などが理由で最終的には成立せず協力の方々や参画の企業にまで迷惑をかける結果となりました。

しかしながら、私どもはこの程度のことであきらめるつもりはありません。不景気で公的補助が望めないのなら、いま全国各地に広がる「地域通貨の発行」などを含め、新たな戦略を立てて、巻き返しをはかり、ふるさと奈良の活性化に一層、力をつくしたいと思っています。

新しい年を迎え会員各位の更なるご提案とお力添えをお願い申し上げます。



「樹と人と水の共生、源流保全事業」

国連では二〇〇二年の今年を国際山岳年と決めました。国際山岳年とは、生態系保全、資源保持、文化遺産など多角的な視点で世界の知恵を集積することで、山岳地帯本来の役割や資源を活かしながらそれぞれの地域の生活の向上を促す新しい開発の形を模索しようという試みです。

吉野地方は、大台、大峰山脈が連なり近畿有数の山岳地帯です。天然林を自然から与えられた貴重な財産と位置づけて保護し、次世代に残す運動が始まりました。日本三大美林のひとつ、吉野川源流の民有地三八二ヘクタールを買い上げ保護にのりだしていますが、市町村が手がける天然林保護の規模としては国内では例がないだけに、買い取った森をどのように管理していくかがこれからの課題です。動植物の生態調査などのために十億円の基金を設け、全国各地から訪れる人々が森に入れるように整備したり、下流域のためにきれいで豊かな水を確保し、洪水を防ぐ緑のダムとして、源流から環境を守つてゆこうとする川上村の取組みに奈良21世紀フォーラムは全面的に共鳴し、県内は勿論のこと、将来は関係する府県のNPOとも連携して運動を盛り上げて

ゆきたいと思えます。

緊急の運動方針として、天然林内の散策道路の案内看板の設置、規制する内容の決定、他府県の森の保全活動の情報収集など、NPOのネットワークを通じ全国的な支援活動を要請しながら運動を展開してゆきたいと考えています。単独の支援事業として、森と水の源流館が四月二十九日に開館されますが、当日の記念事業として参加者に一人一本の記念植樹の



提案を計画しています。また、「ルー

ル作り」のために、NPOが中心となつて保全ボランティアによる連絡協議会を作り、定期的な勉強会を開催します。特にマスコミの協力が必要で、地元奈良新聞は国際山岳年を機に、日本新聞協会加盟の有志地方紙八社で山に対する認識を深める運動を進めることを決定しています。

昨年当フォーラム主催のITシンポジウムに来賓として出席された柿本知事がその挨拶の中で、「奈良21世紀フォーラムは吉野の方で水源を守る活動をされていると聞いています。事業としては本当にNPO活動として核になるような歩みをされているようで喜ばしく、ご発展を心から祈念します。」と激励の言葉を頂いています。

昨年八月十九日、台風十二号が接近する中、石橋理事長以下九名が川上村のイベントに協賛して、川の源流視察に参加しました。山ヒルに悩まされながらも雨に煙るトガサワラやブナの天然林を目のあたりにし、私達は森と水との関わり合いを考える体験をしました。その後、主催の川上村企画財政の担当の皆様と打合せしながら百年の事業と位置づけた運動をスタートすることになりました。

古都奈良 イタリアの音楽交流を支援

奈良21世紀フォーラムの事業項目のひとつに奈良県内の他の文化団体の活動を支援する活動が含まれています。今年度も奈良市国際音楽交流協議会（会長 野村正雄奈良銀行頭取）が、イタリアのオルトーナ市から招いたトスティ・アンサンブルの訪日コンサートツアーを支援し、成功を収めました。トスティ・アンサンブルは、近代イタリア歌曲の創始者トスティ研究の権威サンビタレー教授（トスティ協会館長）を団長に、ソプラノの新進歌手、バリトン歌手、ピアノの伴奏者からなる四人編成の声楽グループです。去る十月四日から四日間わたって、奈良市高円高校を皮切りに、大阪の都ホテル、藍野高校、奈良の秋篠音楽堂でリサイタルを行ない、甘美なトスティ歌曲を披露しました。このリサイタルには地元からもソプラノの山口佳恵子女史らも出演されました。トスティのコンサートが奈良県内を飛び出し、大阪に進出したのは今度が初めてです。同協議会では、来年、トスティ国際コンクール（日本予選大会を奈良で開催する準備を進めており、当フォーラムも古都奈良を国際的に周知するプロジェクトとして微力ながら支援を続ける考えです。

